

残暑お見舞い 申し上げます



今年も、連日厳しい暑さが続いておりますが、皆さまにはお元気で過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が我が国で確認されてから既に3年目を迎えておりますが、このコロナ禍と言われる期間中、私たちは人との関わりに制約を持ち込まれ、各種イベント、集会、会議等、人が集まる機会が奪われてしまいました。そういう状況下で、ひとりですぐ時間が多くなると不安や孤独を感じがちですが、物理的な非接触を余儀なくされても、心理的な非接触は回避していかねばならないと思っております。感染対策に留意し

ながら、ご家族やご友人・ご近所の方々等とのコミュニケーションを円滑に保つて、心身ともに健やかに過ごせる環境づくりにも心がけていただきます。

一方、長引くコロナ禍の影響もあり、都市住民や若者を中心とした「田園回帰」の潮流や、テレワーク、ワーケーション等の新たな働き方や移住、定住、2地域居住への関心の高まりなど、地方への期待も高まっています。『築く』ことは『築く』ことにもつながる」という言葉もあるように、コロナ禍で変わる価値観や消費者ニーズなど、社会の様々な変化を的確に捉えながら、現状を認識し、課題や問題

点、置かれている状況の変化等に「気づき」、それらをヒントにしながら未来を見据えた施策に取り組むことが、より良い本町の未来を「築く」ことに繋がっています。

地理的条件や人口、経済の格差を乗り越え、「小さい」「遠い」「不便」といった地域のマイナスをプラスの個性に変えて、地域を活性化していけるような施策にも取り組んでまいりたいと考えております。

そういった取り組みの一つとして、若者定住促進策にも取り組んできておりますが、加えて、町内で新たに独立就農をめざす方に農業技術等を習得していただ

くための「新規就農研修生制度」を今年度新たに設けており、町外出身の一組のご夫婦が現在研修中でございます。

地域における持続可能な経済・社会を構築し次世代に引き継いでいくことは、私たちの世代に課せられた責任であると思っております。今後も本町の未来を見据えた施策に取り組んでまいり、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

立秋を過ぎましても、なお暑さが続いております。皆さまにおかれましてはマスクや手洗いなど感染予防にご協力いただき、感謝申し上げますとともに、引き

続きの感染予防に努めてくださいますようお願い申し上げます。

また、残暑厳しい折から、熱中症にもご留意のうえ体調を崩されませぬようご自愛ください。

ご家族の皆さまが健康かな日々をお過ごしください。また、どうぞお祈り申し上げます。暑のごあいさつといたします。

令和4年晩夏

大崎町長
他職員一同

